

6 本時の学習（12時間予定 本時はその1）

(1) ねらい

自分たちで計画したお楽しみ献立をもとに、お弁当作りをすることを理解し、食事調べをしながら自分の食生活を見直すことができる。

(2) 人権教育の視点

一緒に給食を食べる下級生のことを思いやりながら、お楽しみ献立を考えることができる。

家族や栄養士・給食センターなど食事に関わる人々の工夫を考えながら食事調べができる。

(3) 準備 学習ノート 給食献立表

(4) 展開（きめ細かな指導）

学習活動	時間	支援及び指導上の留意点	評価規準（方法）
1 本題材のめあてをつかむ。	5分	・調和のよい食事について実習を通し学習することを説明する。	（十分満足な状況 おおむね満足な状況）
2 本題材の学習内容を理解する。	20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お楽しみ献立作りについて （月に1度実施されているお楽しみ給食の献立をクラスで考え栄養士・給食センターに依頼することを知らせる）</li> <li>・お弁当作りについて （お楽しみ給食当日は、同じ献立を家庭で自作のお弁当にして持参することを知らせる）</li> <li>・この学習を通し、バランスのよい1食分の食事作りを考えることができるようになり、自分の生活に生かせるようにするというねらいをおさえておく。</li> <li>・学習の流れについて （お楽しみ献立はクラスで話し合い、栄養士・給食センターの都合と合わせ決定する。） （自分でお弁当を作ることやお弁当として持ち運びできることを考慮しながらお楽しみ献立を考えるように助言しておく）</li> <li>・質問等を受け、具体的に学習内容を理解させ意欲付けを行う。 調理に自信がない児童には既習の学習内容を生したり、家庭で調理の機会を増やしたりするように伝える。</li> </ul>	<p>学習内容を理解し、積極的に質問したりメモをとるなどし、進んで学習に取り組んでいる。 （観察）</p> <p>学習内容を聞き、本題材のめあてが分かる。（観察）</p>
3 食事調べをする。	20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まず、自分が日頃どのようなものを食べているか朝食と夕食について学習ノートに書き出すようにする。</li> <li>・プライバシーに配慮し、発表はひかえるようにする。</li> <li>・昼食については給食献立表をもとに教師が発表し記述させる。</li> <li>・次に朝食、夕食のおよその食品名を書かせる。給食についても同様に書かせてから、献立表をもとに食品名を発表する。</li> <li>・食事内容や食品数から気付いたことを学習ノートに書かせる。 机間巡視をし、書き方が分からない児童には支援をする。</li> <li>・食事調べは次時の学習に役立てることを知らせる。</li> </ul>	<p>自分の食生活をふり返り、改善点や家族の工夫している点に気付き学習ノートに記入することができる。 （学習ノート）</p> <p>給食の食品数が多いことなど自分の食生活に関心をもつことができる。 （学習ノート）</p>